

昭和五年を迎へて

堀 七 藏

物の道理からいへば元日は大晦日の延長であるから、大晦日がお目出たくなれば元日もお目出度くない譯でありませう。しかしそれは特につむじ曲りの知的な理窟で、萬人均しく新年を祝し元日を喜ぶのは人情であります。元日がお目出度く、新年を祝するが如く、私は昭和五年を期して幼稚園教育の發展を熱望するものであります。實に昭和五年は我が國幼稚園教育が創始せられて五十五年に相當するものであります。東京女子高等師範學校附屬幼稚園が創立開園せられたのが實に明治九年のことであります。

明治九年より大正の御代を経て、昭和の聖代に及び、茲に五十五年を數へるのであります。また我が國に於て幼稚園令が制定せられてから茲に五年の歳月を數へることも昭和五年を特に意味づける強い根據となるのであります。更に日本幼稚園協會の前身たるフレイベル會の創立せられたのが、明治三十年であります。當時我が國唯一の婦人雜誌にして幼児教育雜誌たる「婦人と子供」が、我が國の幼児教育に如何に貢獻する所が大であつたかを回想し、今日こそ婦人雜誌も多く子供の雜誌も多くなつてゐるが明

治時代天にも地にも我が國で唯一の「婦人と子供」が我が國の教育に如何に大功があつたかを考へ、更にその後健全に發育して茲に三十卷を數へる「幼兒の教育」の將來益々多幸ならんことを希ふとき、「實に昭和五年は只の年ではない。」といふ感に私の胸に滿ち／＼たるものがあります。私は昭和五年を迎へて、幼稚園教育者諸君と共に我が國の幼稚園教育が益々發展して、數に於ても質に於ても幼稚園の益々發達進歩せんことに最善の努力を盡したいと希ふのであります。

紅葉の莖も紅さすあしたかな
園女